

# インドの建設・鉱山事業

2015年9月16日

コマツ 取締役常務執行役員  
建機マーケティング本部長  
篠塚 久志

# 目次

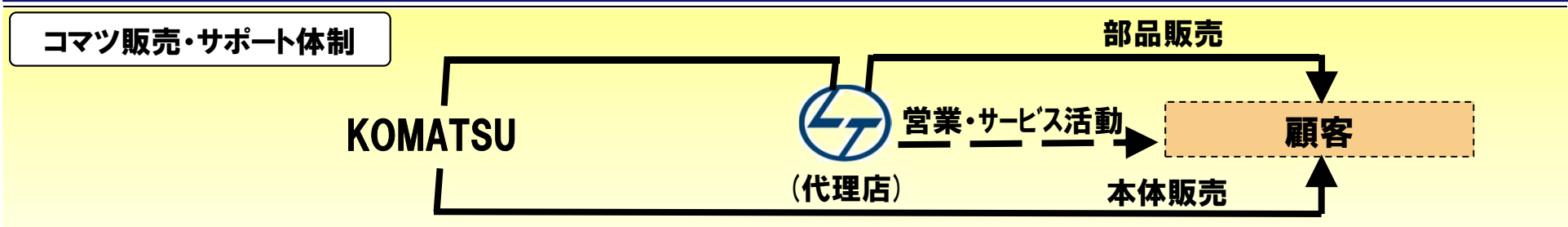
## コマツインド事業概要

1. インド概要
2. 生産・販売・プロダクトサポートネットワーク
3. コマツのインド事業歴史
4. コマツのインド事業位置づけ
5. 長期市場トレンド
6. コンストラクション事業
7. マイニング事業
8. インドオペレーションの将来図(インドからの輸出展開)
9. CSR活動



- **国土面積** : 328万7469平方キロメートル (世界7位)
- **人口** : 12.36億人 (世界2位)
- **名目GDP** : US\$2兆669億 (FY14 成長率 7.3%)
- **都市化率** : 32%
- **道路・鉄道網** : 4,690,000km (道路), 65,436km (鉄道)
- **電力需給 (ピーク時)** : 需要 156,862 (MW), 供給 152,754 (MW)
- **主要鉱物** : 石炭、鉄鉱石、石灰石、マンガン、ボーキサイト
- **日印貿易主要品目**
  - インドへの輸出 : 機械、鉄鋼、電気機器、自動車及び部品、精密機器
  - インドからの輸入 : 石油製品、有機化合物、貴金属、魚 他、鉄鉱石

# KOMATSU 2. 生産・販売・プロダクトサポートネットワーク

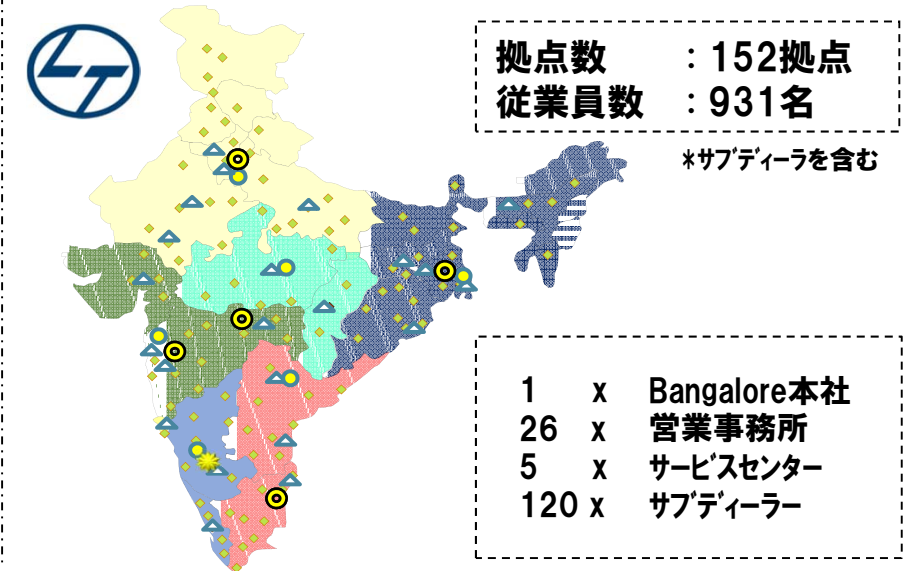
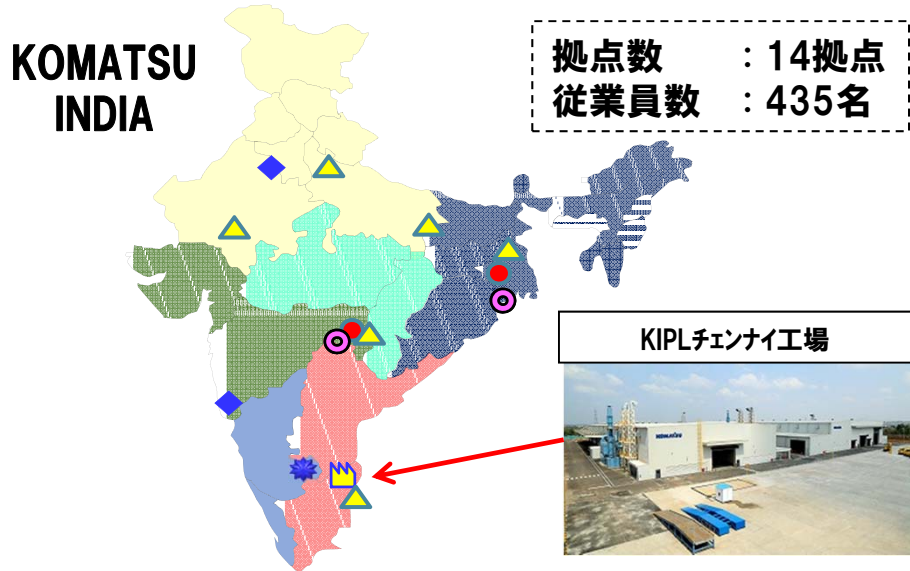


**Komatsu India Pvt. Ltd. (KIPL)**  
 建設・鉱山機械の開発・製造・販売、及び  
 産業機械の販売・サービスを担うインド現地法人

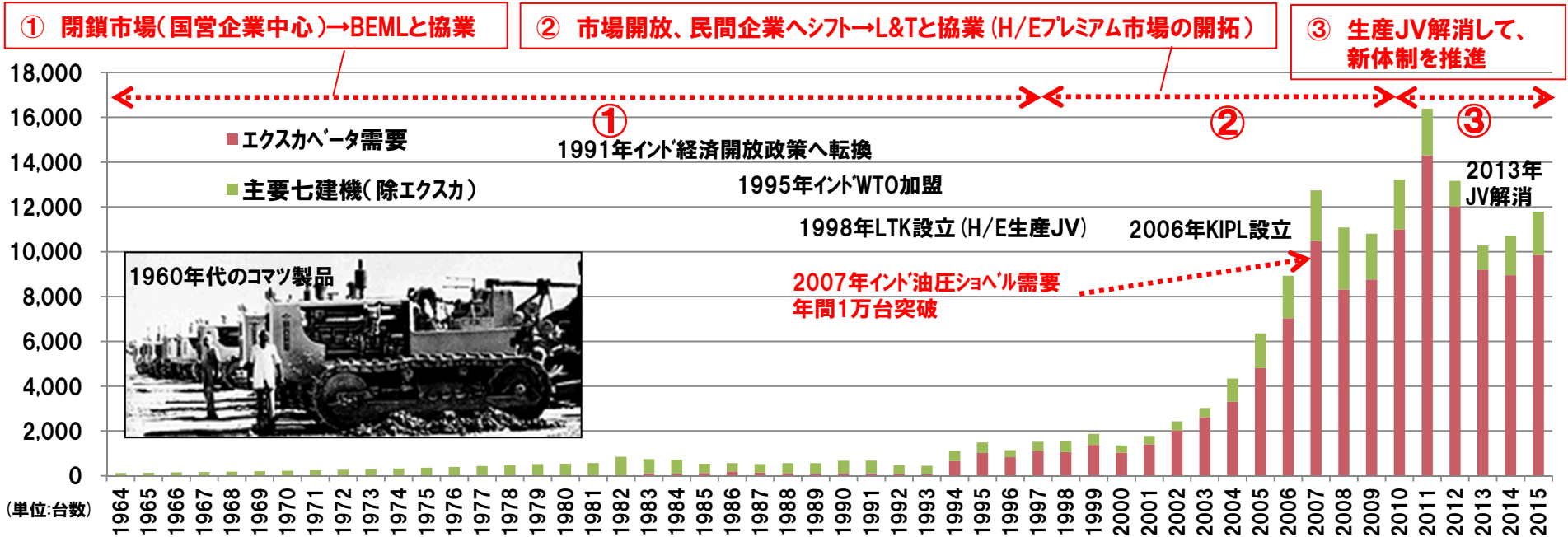
- 1 X 🏠 Chennai本社 (ダンプ・エクスカベータ生産工場)
- 1 X 🌟 Bangalore マーケティング・プロサポート事務所
- 2 X 🟠 部品デポ
- 2 X 🎯 サービスサポートセンター
- 6 X 🟡 フロントラインオフィス
- 2 X 🟠 コマツ/ニッパイトヤマ、産業機械事務所

**Larsen & Toubro Ltd. (L&T)**  
 インドにおけるコマツの販売・サービス代理店

- ・1938年設立。
- ・2014年度グループ売上高 9,276億ルピー (約1.8兆円)。
- ・グループ従業員54,579人 (2014年3月末)。
- ・2014年度機械部門売上はグループ売上の約4%。
- ・コマツは、L&T機械部門とH/E生産JVを設立した1998年に同社をインド代理店としてアポイント。



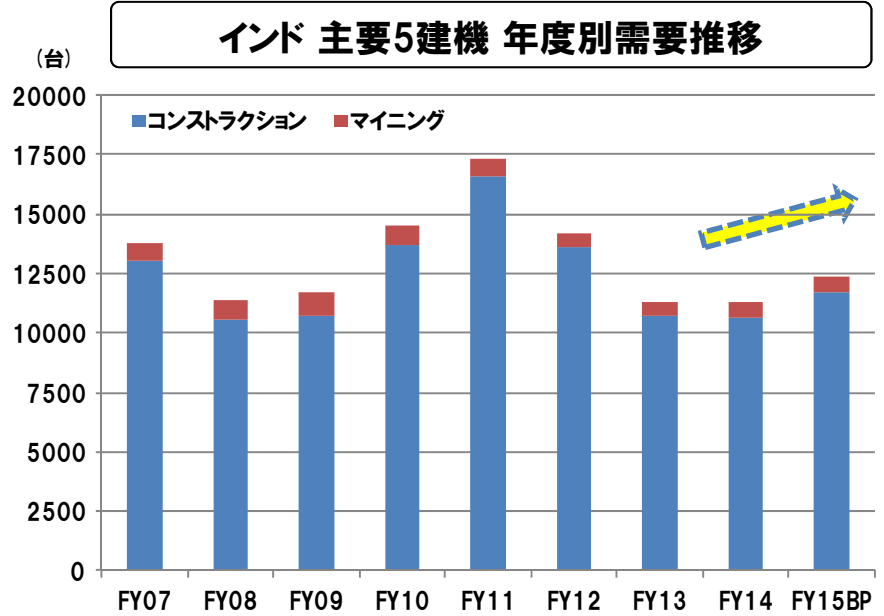
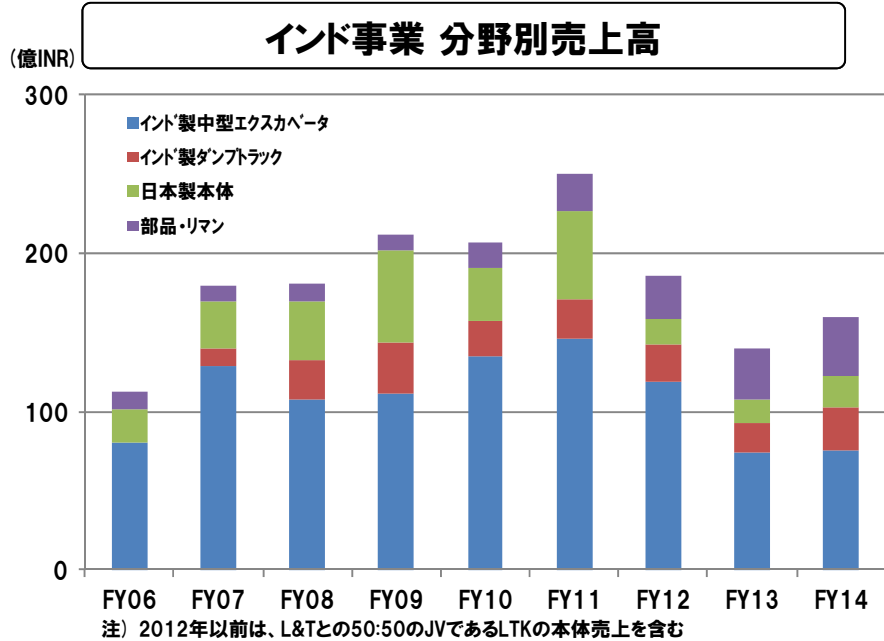
- ・コマツはインドで1964年より50年以上、事業を展開している。(1964年 コマツ初の海外事務所設置)
- ・市場開放後に、エンジニアリング・建設事業を主とするインド有数のコングロメリット Larsen & Toubro社 (L&T) と協業。1998年にH/Eの生産JVを設立。
- ・2006年にコマツ独資の子会社 (KIPL) にて、マイニング市場向けにダンプトラックの生産を開始。
- ・H/E生産JVを13年4月に解消、生産・開発はコマツ、販売・サービスはL&Tが責任を持つ新体制へ移行。



市場環境		政府取引中心	民間市場拡大	
コマツの取組	経営	64年 カルカッタ事務所設置 67年 バンガロールへ移転	06年KIPLにマーケティング機能設置 09年インド総代表設置 産機部門をKIPLディビジョン化	
	販売	58年～98年 政府系企業(BEML)による販売	98年～ 民間企業(L&T)による販売 / 08年～ KIPLによるD/T輸出	
	生産	建設機械	58年～98年 政府系企業(BEML)による生産	98年～13年 JV企業(LTK)による生産 13年～ 完全子会社(KIPL)による生産
		鉱山機械	—	06年～ 完全子会社(KIPL)による生産

# 4. コマツのインド事業位置づけ

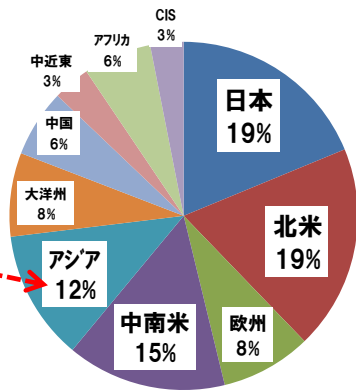
2014年度コマツの建設・鉱山機械事業売上に占めるインド市場比率が約2%、全世界需要に対してインド需要が約4%と小さいが、将来、他地域を上回る大きな潜在力を秘めた市場である。



### 建設・鉱山機械 地域別売上比率

建設・鉱山機械事業  
外部顧客向け売上高  
FY14: 17,613億円

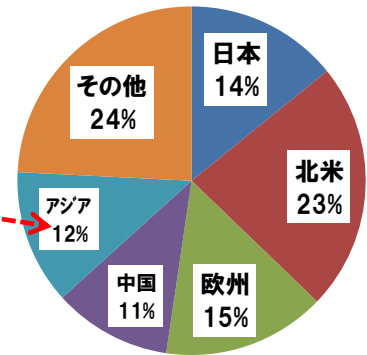
アジア 12%  
(内 インド 2%)



### 主要7建機 地域別需要比率

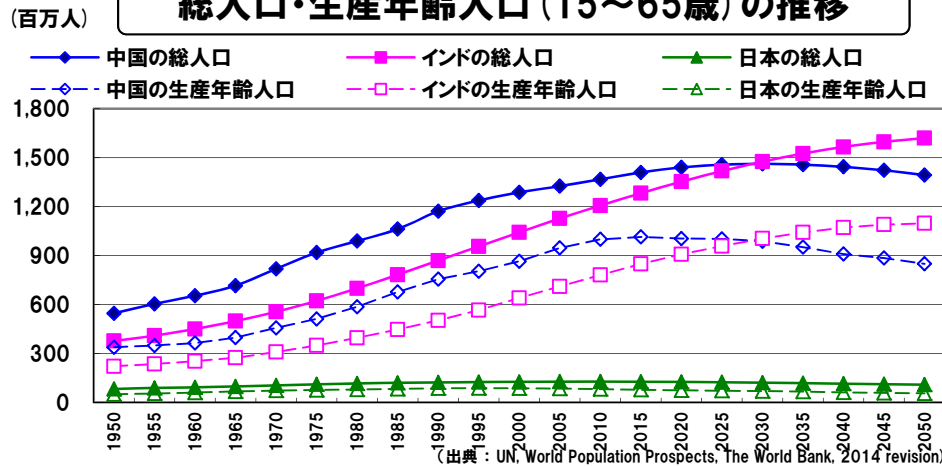
FY14需要:  
約27万5000台

アジア 12%  
(内 インド 4%)

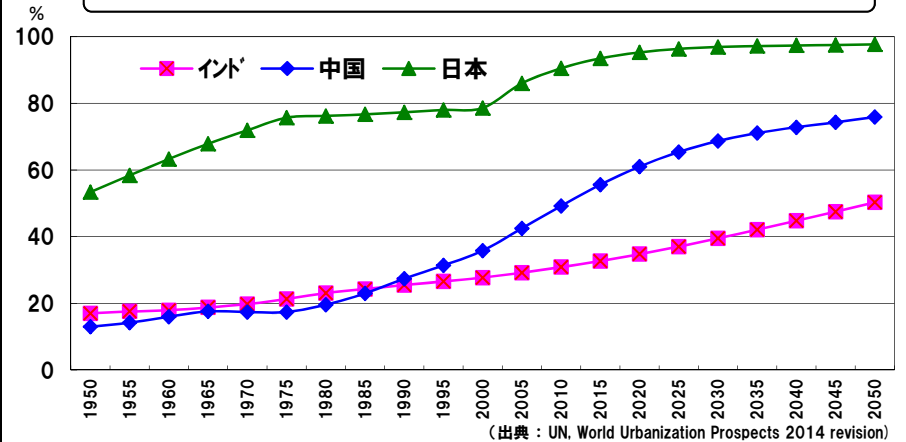


- ・インドの総人口は2030年頃に中国を抜き、人口増加は2050年頃まで継続する見込み。
- ・現在のインドGDPは10年前の中国と同規模。民主主義の為、成長スピードは遅いが、成長期間は長い。
- ・今後、都市化率が高まり、インフラ投資が拡大する見込み。
- ・石炭・石灰石・鉄鉱石等、主要鉱物の生産量において、世界有数国。

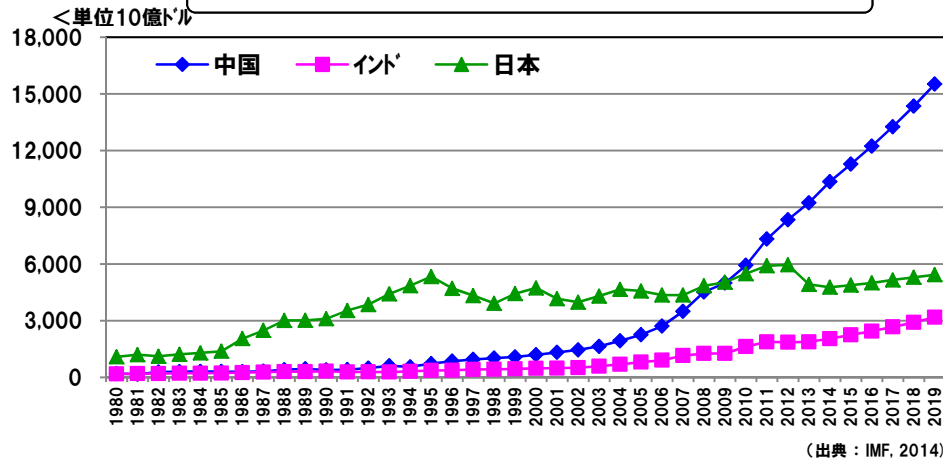
総人口・生産年齢人口(15~65歳)の推移



都市化率の推移



名目GDP(ドル建て)の推移



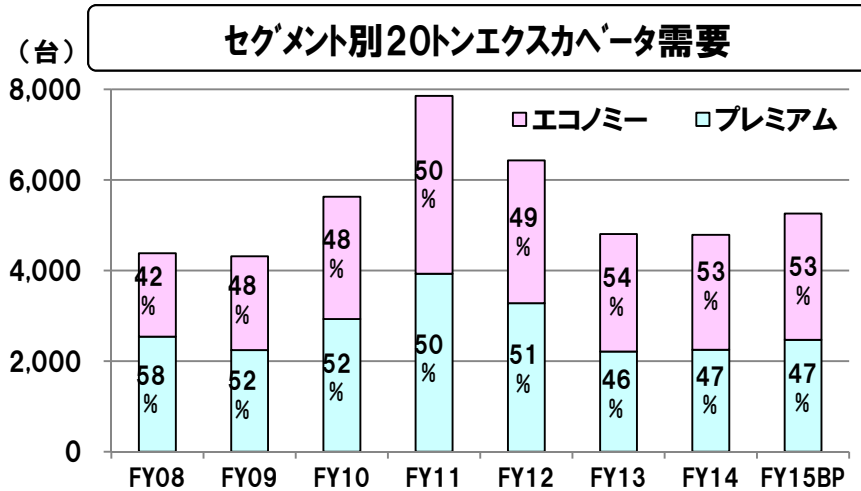
主要鉱物生産量

鉱物	生産量 (Mil. ton)	世界順位
石炭	563	3
石灰石	278	2
鉄鉱石	152	4
ボーキサイト	21.66	5
亜鉛	1.49	5
銅	0.14	8

(出典：Indian Bureau of Mines, 2014)



・新政権のインフラ整備実行に対する期待による市場センチメント改善からGDP成長が見込まれる15年度は、建設機械需要が前年比+10%増に転じると見込む。



エコノミー(一般に、旧型・低性能機)・・・  
国産エンジン搭載等、価格重視の市場

プレミアム(一般に、新型・高性能機)・・・  
輸入エンジン搭載等、品質重視の市場

コマツは主に機械性能・サービスを評価するプレミアム市場に高価格で建設機械を販売。

- ⇒ 他社に先駆けたICTを活用したビジネス
- ⇒ メンテナンス契約
- ⇒ タイムリーな部品供給 など

顧客の生産性を高めるオペレーション展開し、プレミアム市場においてNo.1シェア。

コンストラクション事業の活動

機械デモンストレーション

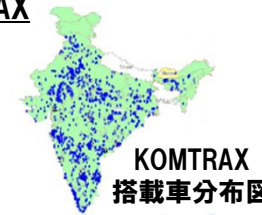


サービスキャンプ



コマツ技術で開発・生産された機械品質をデモ活動等を通してマーケットに浸透、高品質のプロダクトサポートにより顧客を囲い込み。

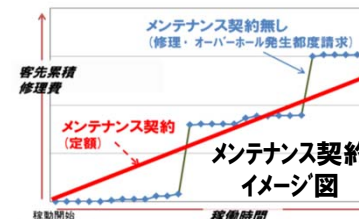
KOMTRAX



KOMTRAX 搭載車分布図  
PC210 x 2381台をモニター ('15/8現在)



ユーザの稼働状況をモニタリングし、低燃費運転指導等オペレーションコストの低減案を提案。



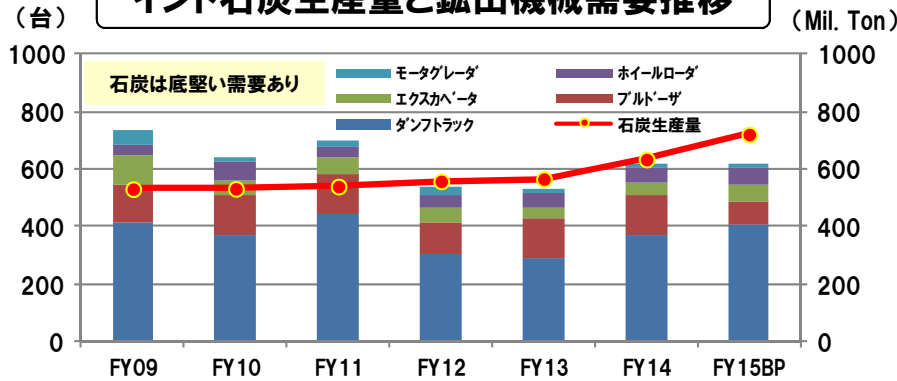
中央部Nagpurデポより部品供給

定期点検・整備・修理、タイムリーな部品供給により、お客様の機械の安定稼働・生産性向上に貢献。

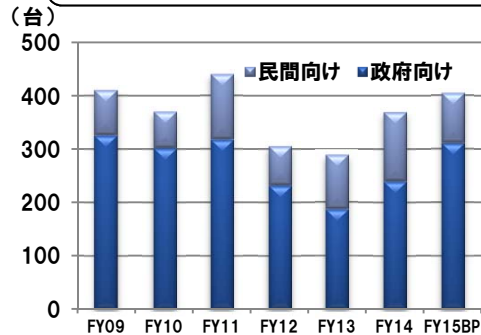


インド鉱山機械需要の約80%は石炭セクターからであり、石炭の増産に伴い、鉱山機械需要は増加。

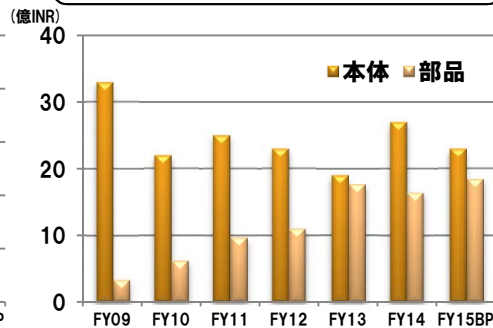
インド石炭生産量と鉱山機械需要推移



セグメント別  
ダンプトラック需要



KIPL マイニング  
本体・部品売上推移



コマツは表面価格のみで落札者を決定する政府入札でなく、セグメント毎のトップ3民間ユーザーにオペレーションコスト削減・生産性向上の為の現場改善活動を推進し、顧客店内シェアは約60%、またFull Maintenance Contract (FMC) 等サービス契約により部品販売を着実に伸ばしている。

民間ユーザーとの現場改善活動

燃料消費削減案提案 ホールロード改善 (タイヤライフ延長)



顧客トップに効果を示しながら改善案を提案、現場で実践。

マイニング安全改善活動



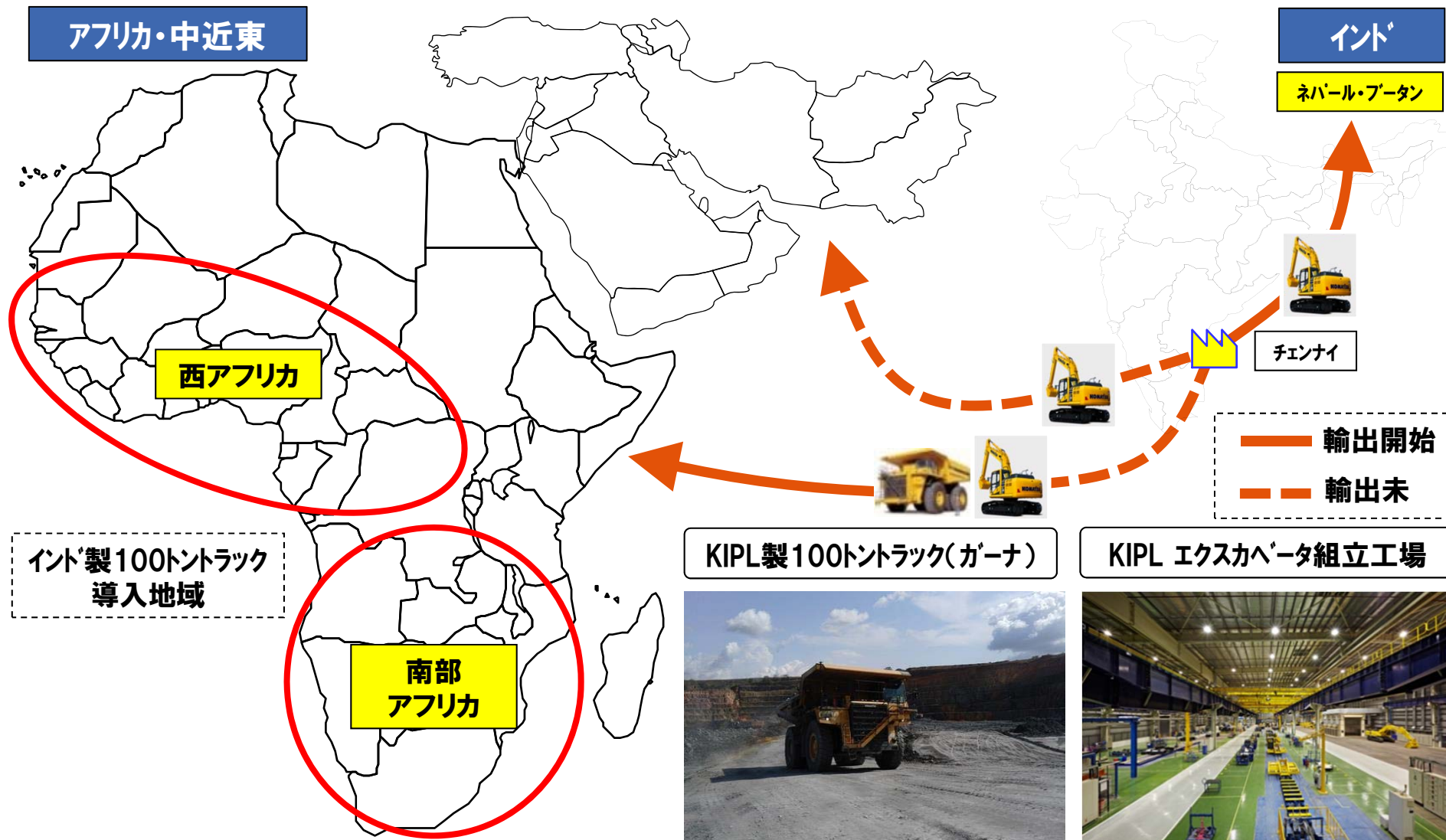
オペレータ教育

夜間照明の設置

2012年5月の活動開始以来、顧客の事故件数は顕著に減少。

# KOMATSU 8. インドオペレーションの将来図(インドからの輸出展開) <sup>10</sup>

- ・アフリカ向け100トンダンプトラックの輸出拠点として、2011年より9ヶ国に計153台を出荷。
- ・エクスカベータは2015年よりネパール・ブータン向けに輸出開始。2017年以降、アフリカ・中近東向けに輸出開始予定。



### Industrial Training Institute (ITI) との関わり

#### ① 訓練用溶接設備の提供(2010年度)

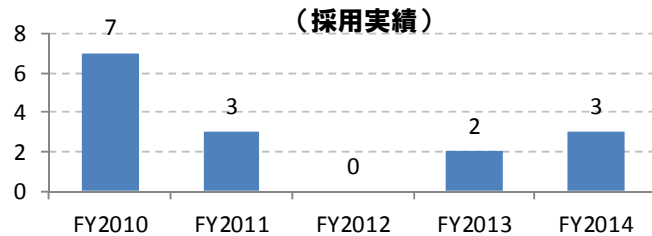


#### ② チェンナイ工場からの講師派遣(2010年度～)

- ・期間 : 毎年、11月～翌年6月まで(4h×週2回)
- ・生徒数 : 20 - 30名



#### ③ 優秀な卒業生を実習生として採用(2010年度～)



### 地域社会への貢献

#### ① 周辺学校からの工場見学受け入れ(2012年度～)



2012年-  
11件  
439人



#### ② 周辺小学校への寄付(2008年度～)

研究機材、教室設備、学校  
教師への金銭的支援など



### ネパール震災復興支援

2015年4月25日 マグニチュード7.8の地震発生  
5月12日 マグニチュード7.3の余震発生  
5月20日 KIPLスタッフ 状況確認の為ネパール入り  
6月15日 KIPL幹部 支援内容討議の為ネパール入り  
建屋の損傷を受けた代理店、周辺学校へのプレハブハウス寄贈を決定



代理店建屋設置予定場所

#### 支援内容

- |  |   |
|--|---|
| ①代理店への仮設事務所用2階建て<br>プレハブハウス寄贈                | 600m <sup>2</sup>                         |
| ②損傷を受けた学校へのプレハブハウス寄贈<br>※上記支援はセットアップ、組立指導を含む | 80m <sup>2</sup> x 5棟 = 400m <sup>2</sup> |





# ご清聴、ありがとうございました

